

2022 年度庭園文化研究分科会 活動報告

庭園文化研究分科会 原 裕二

1. 今年度の活動の概要

今年度は例年になく、多くの庭を見る機会があった。

これは出雲文化伝承館で継続している出雲流庭園講座を通して、様々な情報が寄せられたことが大きい。

出雲市文化財課の御協力、講座においでになった方からの情報、その他関係の皆様からのお誘いあって、有意義な視察を行うことができた。

本来なら1つ1つの庭園について詳しく解説すべきだが、紙面の都合上、これらの庭園の概要を表1にとりまとめた。個々の庭園は箇条書きで紹介する。

表1 2022年度視察した庭園

視察した庭園	場所・位置	作庭年代	特徴
出雲市民家1-0	旧出雲市北部の平野 (田園地帯)	不明。昭和に増改築	手入れの行き届いた典型的な出雲流庭園。花崗岩類が主体。
出雲市民家2-M	旧出雲市北部 北山の山麓	出雲流庭園以前の様式の可能性。	北山山系の岩石を多く用いる。飛石がない。よく管理された庭園。
出雲市民家3-N	旧出雲市北部 北山の山麓	出雲流庭園以前の様式の可能性。	やや古風な印象。北山の安山岩類を巧みに取り入れている。
出雲市民家4-Y	大社町の海岸砂丘	不明。近年に改修。	古くから続く名家。珍しい灯ろうが存在。
出雲市民家5-T	斐川平野中央部の田園 (斐伊川下流)	昭和8年に移転。母屋以外は明治28年築。	典型的な出雲流庭園。花崗岩類が主体。半島部の凝灰岩が混じる。
安来市荒島地区	中海沿岸の平野	昭和～平成。	出雲流の要素を持つ町屋の庭。飯梨川流域の赤砂と荒島石が特徴。
常松家庭園	斐川平野西部の田園地帯 (神立橋南)	明治7年に移転。屋敷は大正昭和に改修。	出雲流庭園が確立する前の様式？花崗岩類と安山岩類が混在。
駕籠(かご)石庵	大社町の海岸砂丘	大正末。2020年カフェに改築。	古くから続く庭園を現代風アレンジ。白砂が美しい。
上野家庭園	旧出雲市北部 北山の山麓	主屋は江戸後期、大正昭和に改修。	出雲流庭園が確立する前の様式？花崗岩類と北山山系の安山岩類が混在。
出雲市民家6-S	旧平田市宍道湖沿岸の平野	昭和～平成。	島根半島で見られる砂岩や安山岩類が豊富に使用される。
出雲市民家7-F	旧出雲市神戸川右岸の田園地帯	江戸時代初期。先代が一部改修。	出雲流庭園が確立する前の様式？花崗岩類と南部の安山岩類が混在。

2. 今年度視察した庭園

2-1 出雲市民家1-0

(1) 庭園を取り巻く環境

西流していた斐伊川の自然堤防あるいは氾濫原に残る地形の高まりに当たる。松江

杵築往還が近くを通る。もともとは水田が広がる散居集落であった。

(2) 庭の状況

先代が特に熱心で、現在の姿に整備された。中門寄りに来待石の立ち灯ろう、奥に雪見灯ろう。庭石や飛石などの石組みは花崗岩類を基調。時折地元の安山岩や凝灰岩が混じる。典型的な出雲流庭園。手入れが行き届いており、日に映えて美しい。



図1 出雲市民家 1-0 典型的な出雲流庭園

2-2 出雲市民家 2-M

(1) 庭園を取り巻く環境

出雲市北部の北山の麓。平田から杵築に至る街道筋。古くから続く名家が多い。

(2) 庭の状況

中門寄りに来待石の春日灯ろう、奥に雪見灯ろう。石組みの多くは北山で見られる安山岩や凝灰岩。飛石はない。よく手入れされており、周囲の景観に溶け込んでいる。



図2 出雲市民家 2-M 北山山系の岩石が多い

2-3 出雲市民家 3-N

(1) 庭園を取り巻く環境

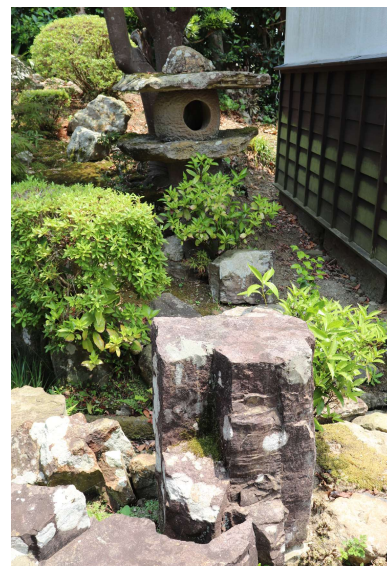
出雲市北部の北山の麓。平田から杵築に至る街道筋。古くから続く名家で、特徴的な建築様式を持つ。

(2) 庭の状況

中門は現在ない。立ち灯ろうや雪見灯ろうはなく、自然石を利用した山灯ろうが主体。北山で見られる柱状節理が発達した安山岩を多用する。

出雲市民家2-Mと同様、出雲流庭園の原型と思われる。

図3 出雲市民家 3-N
安山岩の柱状節理



2-4 出雲市民家 4-Y

(1) 庭園を取り巻く環境

古くから続く名家で、以前は広大な土地を所有していた。農業を始め、様々な事業を行って、地域の発展に寄与した。

(2) 庭の状況

近年屋敷を新築したことで、かつての庭園の面影は残っていない。特徴的な来待石の灯ろうが見られる。珍しい庭木や盆栽があって、大切に管理されている。



図4 出雲市民家 4-Y
残月の来待石灯ろう

2-5 出雲市民家 5-T

(1) 庭園を取り巻く環境

古くから続く名家。大正11年から始まった斐伊川治水計画によって、昭和8年に現在地に移転した。斐伊川が今まで作ってきた自然堤防上に位置する。

(2) 庭の状況

散居集落に存在する典型的な出雲流庭園。敷地面積が大きい上、よく手入れされている。花崗岩主体の石組みで、島根半島の凝灰岩や砂岩が混じる。



図5 出雲市民家 5-T 典型的な出雲流庭園

2-6 安来市荒島地区の庭園

(1) 庭園を取り巻く環境

この地は中海に近いため波風が強い。「荒島」という地名は、波浪が荒々しいことに由来する。所々に標高20~50mの小さな台地がメサ状に残り、海蝕崖やノッチが認められる。江戸時代中期にト蔵孫三郎が新田開発や道路、港の改修を行い、現在のような平野ができた。その結果、稲作や梨、酪農などで栄え、今に至っている。



図6 安来市荒島地区 ダイナミックな石組

(2) 庭の状況

日白石(波多層無斑晶質安山岩)の石垣や庭石・飛石、荒島石の灯ろうや建築材料が特徴的である。また飯梨川から田頼川を通ってもたらされる赤砂は、敷砂として惜しげもなく豊富に用いられている。出雲流の要素を持つ町屋風の庭が多い。

2-7 常松家庭園 一国登録有形文化財

(1) 庭園を取り巻く環境

斐川町求院の斐伊川右岸に位置する。もともと東にあったが、明治6年の洪水で被災し、少し比高が高い現在地に明治7年に移転した。茅葺きで特徴的な建築様式。



図7 常松家庭園 市内最大級の茅葺き民家

(2) 庭の状況

出雲流庭園が確立する前の様式？ 飛石や庭石に安山岩類が多い。一方で灯ろうや庭石の臼(うす)など出雲流の要素も見られる。

2-8 駕籠石庵 (かごいしあん)

(1) 庭園を取り巻く環境

大社線大社駅の北側にあり、海岸砂丘の上に立地する。現在は住宅地に畑地やブドウ畑が混じる程度だが、以前は一面の桑畑だった。



図8 駕籠石庵 現代の出雲流庭園

(2) 庭の状況

築100年の古民家を改修し、2020年にカフェとしてオープンした。現代の庭らしく明るい感じで、白砂が眩しい。

2-9 上野家庭園

一国登録有形文化財

(1) 庭園を取り巻く環境

大社町北部の北山の麓。平田から杵築に至る街道筋。古くから続く名家で、茅葺きの特徴的な建築様式を残す。



図9 上野家庭園 市内最古級の茅葺き民家

(2) 庭の状況

出雲流庭園が確立する前の様式？ 花崗岩類よりも北山山系の安山岩類や砂岩が多い印象。あまり類を見ない形の灯ろうが存在する。

2-10 出雲市民家 6-S

(1) 庭園を取り巻く環境

旧平田市の宍道湖沿岸に位置する。松江から平田に至る街道筋。道路の拡幅等で何度か敷地や庭の改修を行っている。中門が見事である。

(2) 庭の状況

昭和～平成にかけての庭と思われる。島根半島部でよく見られる砂岩の沓脱石(くつぬぎいし)や安山岩類の庭石・飛石が使用される。



図 10 出雲市民家 6-S 中門の額縁効果

2-11 出雲市民家 7-F

(1) 庭園を取り巻く環境

旧出雲市神戸川右岸の住宅地にある。周辺はかつて水田が広がっていた。先祖は尼子方の家臣であり、戦国時代に毛利家の勢力を避けて広島県から移住してきたと伺っている。

(2) 庭の状況

江戸時代末から明治にかけて大改修されたが、出雲流庭園が確立する前の様式を随所に残す。花崗岩類と出雲市南部の火山岩が混在する。主な石組みや飛石は安山岩や流紋岩が多いように見受けられる。



図 11 出雲市民家 7-F 江戸初期から続く庭園

3. 視察した庭園から感じたことー庭園と小屋組、年代の関係

図12に庭園と屋敷の小屋組の関係を年代別に示す。

軒下の柱と縁側の位置関係から、次の3つに分類される。

A. 軒下に円柱があるタイプ

最も外側にある柱は下屋（縁側の上にある屋根）や縁桁を支えるためのものである。この柱はスパンを飛ばして庭の眺めをよくするため、そして見栄えをよくするために、一般に大きく、小屋組は大規模なものになる。

江戸時代から明治初期までに建てられたものが多い。

地域による違いは今のところ認められないが、「古い建築が残る場所」という意味ではある程度限定される。

この場合の庭園は出雲流庭園が確立する前の様式を表す。枯山水、廻遊式、中門、屋敷の南から南西に位置する、南と西に高い盛土などの、区割りや外構部分に出雲流の要素が見られる。

一方で、花崗岩類よりも地元の岩石を多用することや駕籠石、短冊石、高い飛石が目立たないことがあげられる。全体に古風な印象である。

B. 軒下に角柱があるタイプ

形式はAタイプと同じで、大きな円柱がやや小ぶりの角柱となる。支える重量にさほどの変化はないが、表の間と次の間の境に柱を加えることで荷重を軽減している。

どちらかという、装飾性や眺めを重視した構造と言える。

図12 庭園と小屋組・年代との関係

小屋組のタイプ	江戸時代	明治	大正・昭和
<p>C. 軒下の柱が存在しない</p> <p>Cタイプでは縁桁はここにある</p>	<p>糸原家</p> <p>桜井家</p>	<p>明治以降はCタイプが多い</p> <p>(2-2) 2-M</p> <p>原鹿豪農屋敷</p> <p>出雲文化伝承館</p> <p>Bタイプは平野部の豪農屋敷で数軒見られる</p>	<p>(2-5) 5-T</p> <p>(2-1) 1-O</p> <p>(2-8) 駕籠石庵</p> <p>(2-4) 4-Y</p> <p>(2-10) 6-S</p>
<p>A. 軒下の柱が円柱</p> <p>Aタイプではこの柱が円柱一般に大きい</p>	<p>菅田庵</p> <p>康国寺</p> <p>(2-11) 7-F</p> <p>(2-9) 上野家</p>	<p>(2-3) 3-N</p> <p>(2-7) 常松家</p> <p>明治初期を境に庭園、小屋組の変化が見られる</p>	
石材の種類	花崗岩類よりも近隣の岩石（安山岩、凝灰岩、砂岩など）が多い。		
庭園様式	花崗岩類が主体。近隣の岩石が所々に混じる。典型的な出雲流庭園。飛石や灯ろう、つくばいの配置。約束の庭木。		

平野部の豪農屋敷でこの形式が見られる。

この頃から、典型的な出雲流庭園が始まる。

滝をイメージした石組み・高い飛び石、臼（うす）や短冊石など人工的な石材、灯ろうやつくばいなど露地の要素がふんだんに取り込まれている。

飛石、沓脱ぎ石は花崗岩であり、庭石には地元の岩石が混じる。灯ろうは花崗岩類が主体だが、来待石製も多い。庭木の樹種もある程度限定される。

白砂が敷き詰められているおかげで、明るい印象を覚える庭園である。

C. 軒下に柱がないタイプ

軒下に柱がなく、縁桁は縁側外側の直上に位置する。明治以降の新しい日本家屋でよく見かける形式である。

庭の眺望が確保され、大きな部材がなくても構造的に強いという利点がある。

ここで鉄師頭取の屋敷は江戸時代に建築されたにもかかわらず、軒下に柱がない。積雪や保温性、採光などのためかと推測されるが、今のところ不明である。

筆者は建築の素人なので、これ以上の記載は難しい。今後、事例を集めて、もう少し理解を深めたい。



大きな縁桁

大きな円柱

縁側



荷重は分散

(左) 図 13 常松家住宅－Aタイプ
明治 7 年建築

(上) 図 14 出雲文化伝承館－Bタイプ
明治 29 年建築



柱がない

縁側

(上) 図 15 糸原家住宅－Cタイプ
江戸時代後期建築

(右) 図 16 上野家住宅－Aタイプ
江戸時代後期建築



大きな小屋組

4. 謝辞

今回の視察にあたり、出雲市文化財課の皆様、庭の所有者の方には多大な御協力をいただきとともに掲載を快く許可してくださいました。また出雲流庭園保存会からは大変有意義な情報を賜りました。ここに記して感謝申し上げます。

なお、ここであげた庭園のうち、出雲文化伝承館と原鹿豪農屋敷以外は一般公開されていません。個人の敷地に無断で入ったり、写真を公開することは違法です。十分にご注意ください。

5. 参考文献

荒島地区活性化推進協議会(2005)：荒島ぐるりルート，<http://yasugi-arashima.com/>.

原裕二(2022)：出雲文化伝承館 出雲流庭園文化講座資料，4.

出雲市文化財課(2021)：暮らしの建物ガイド.

鹿野和彦・竹内圭史・松浦浩久(1991)：今市地域の地質，地域地質研究報告(5万分の1地質図福)，地質調査所，18-39.

鹿野和彦・山内靖喜・松浦浩久・豊遙秋(1994)：松江地域の地質，地域地質研究報告(5万分の1地質図福)，地質調査所，26-51，107.

鹿野和彦・竹内圭史・大嶋和雄・豊遙秋(1989)：大社地域の地質，地域地質研究報告(5万分の1地質図福)，地質調査所，10-27.

小口基実・戸田芳樹(1975)：出雲流庭園，小口庭園グリーンエクステリア，61-67，70-73，80-84，109-114，122-125，128-137.

Stanford University(2022/11/30 閲覧)：Japanese Military Maps, Japan 1:50,000 (arcgis.com).

宇野真一(2018)：出雲流庭園文化講座「庭と屋敷」，4.